

議員とカダる会（議会報告会・意見交換会）報告書

開催日時	平成27年5月24日 13時30分～15時40分
開催場所	アピオあおもり 2階大研修室
会場責任者	工藤 健
記録者	山脇 智、舘山 善也、赤木 長義
出席議員	工藤 健、奈良岡 隆、里村 誠悦、藤原 浩平、舘山 善也 赤木 長義、仲谷 良子、軽米 智雅子、小豆畑 緑、木戸貴美男 秋村 光男、竹山 美虎、藤田 誠、山脇 智 以上14名。 ファシリテーター・・・青森中央学院大学准教授 佐藤淳氏
参加者数	28名（全参加者43名）
報告内容	・「子ども医療費助成について」 藤原議員より 中学生までの医療費の助成（無料化）が先の定例会（3月）で可決、成立した旨の報告
報告に対する 質疑・意見・回 答の要旨	市民：先ほどの説明で、退席4人とありましたが、その理由を教えてくださいたいんですが。 佐藤：退席したかどうかは、議案に直接関係無いので、最後に退席した議員の方から、理由を述べていただくということにしたいと思っておりますので、はじめに議案の中身について、ご質問あるかどうか。 市民：私は条件つきで賛成という立場です。やはり固定費が増えていく中で財源をどうするのが心配です。 佐藤：今やることには賛成だが、財源が心配だという意見がありましたが、賛成の議員、いろいろ考えて賛成されていると思いますので、意見を。 藤原：予算編成は理事者の仕事ですので、3月議会での市側の答弁をご紹介したいと思います。まず今年度は国の交付金7700万円が活用できます。 まだ来年度は交付金がかかるかどうかは、決まってはいません。さらに現在進めている事業の見直しをして、財源を生み出していくとの答えもありました。 佐藤：様々な事業を見直しをし、また国の交付金がある可能性もあるという執行部の意見とのことでした。他にご意見はありますか？ 市民：財源に見通しの無い中での実施は反対。所得制限についても高いのか、低いのか。他制度との基準どうなるのかわからないが、

高すぎるのではないかと思うがいかがだろうか？

佐藤：実際所得制限がどうなっているのかについての説明は無かったかもしれません。所得制限について他の制度との関連について発言できる議員の方は？

赤木：さまざまな基準がありますが、今回の提案は場合によっては議員の中にももらえる人が出てくる、議員のなかでも高いのではないかという意見はありました。

佐藤：簡単な基準みたいなのはあるのでしょうか。

竹山：今回の提案は93%から95%の児童が対象になります。県の実施している制度の場合、65%から66%が対象です。非課税世帯にした場合、11%の方が対象です。現在まで市が実施している医療費助成は県の基準に上乘せして、支給しています。今回の拡大についてもこの基準と同様の所得制限になっています。

佐藤：他にご意見は？

藤田：所得制限を設けるともう一度新たなシステムを組まなければならなくなる。もう一度あらたなプログラムをつくらなくてよいので、児童手当の基準と同じにしている。このほうが経費がかからないので、より安く実施できるとの説明を受けた記憶があります。

また市の管理職の方も対象になるという意見がありますが、かなり珍しいケースで、対象も少ないので、あまり参考にならないのではないかと思います。私の意見です。

佐藤：所得制限を設けると新たにシステムを組まなければならなくなり、その経費がかなりかかるということでこういうことになりましたというご説明でした。

市民：財源を問題にしたのは、いま健康を害する子どもがふえている。とくに全国的に糖尿病が増えていることです。糖尿病の検査を大事にするべきと学者も発表している。重くなったから金をやるのではない。

全体の経営を考えたら、一度出したら修正できないお金の使い方は疑問だ。

佐藤：治療よりも予防にお金を使うべきだというお話だったかと。

工藤：いまのお話を受けて、医療費無料化には全議員反対はしていません。やはり問題になるのは財源。

中学、高校と財源を見ながら無料化していくべきというのが、反対した議員の意見というのをご理解ください。

市民：財源の見通しが無いから反対。でももう決まったものなんでしょう。もう決まったことについて、どうのこうのいっても意味無いのでは？後戻りできないんでしょ、反対といたって。

第二の夕張になるのではないかと思います。決まったものをどうですか？といわれても困ります。以上です。

竹山：おっしゃるとおりです。いまさらいわれても仕方ないといわれたけど、どういう経過があって決まったか知らせるのは大事なことだと思います。

これから財源について市に厳しい対応を求めチェックしていくのが、この案件に対する議会の対応になっていくと思います。

佐藤：学者の立場からお話しますが、このテーマでいま市民の方から、意見を聞くことに意味があるのか無いのかとありましたが、僕は絶対に意味があると思うんです。

というのは市民のみなさんが財源問題を考えているというのを議員のみなさんが感じている。これは大きいと思います。

私は学者だから、こういう大きな議決はその前に市民のみなさんから意見を聞く。それが大事だと思います。それはこれから議会報告のあり方も含めて考えていくと思います。

市民：来年の国の予算が決まっていないとのことですが、4億円について、すべて市の財源ではなく流動的な部分があるという理解でいいんですよね？

赤木：確かに決まってはいませんが、くるかどうかわからないものをあてにするのはどうか、現実あるものでやるのが財政の基本だと思います。今回の報告会で市民の皆さんが財政について心配しているのが良くわかったので、これからの議会にいかしていきます。

市民：助成は全額助成なのか？無料か助成か、よくわからない。助成と全額無料は違うのでは？理解できない。

赤木：全員無料なら無料化だが、今回の方は7%の方は支払うことになるので、助成制度という言い方になる。100人の方がいたら7人の方は払うことになるので、無料化ではないということです。

市民：神奈川では、小学生まで全員無料化している。都心でやっているからその通りやれという意味ではないが、何でもかんでも100%賛成ではないが、他県のいいところは取り入れるべきでは。

奈良岡：助成に関してですが、正確に言いますと、無料化の対象者は、国保、社保加入者ですので、医療費はかかるんですが、そのかかった分に対して市で助成をするという制度なので、そういう意味での助成制度ということですので、よろしいでしょうか。

佐藤：いま憶測で述べるのもあれですが、いま全国で医療費無料化の実施が増えているという事実はあります。

それでは一番最初にあった、退席についてお答えして、次のテーマに移りたいと思いますがよろしいでしょうか？それでは、館山議員がご退席をされているようですのでどうぞ。

館山：私を含めて4名の方が退席しています。これは私個人の私見に

	<p>なってしまうんですが、私も事業内容には賛成です。</p> <p>しかし財源の面で、コンビニ受診なども考えれば、4億には収まらないことも想定されます。この事業は今後も続けていかなければならない事業です。</p> <p>執行部としては7700万円の交付金が来るのでなんとしても、3月議会で結論を出したい。国の補助金が次の議会では間に合わないという急ぐ理由もありました。</p> <p>また、どの事業をスクラップするのかという説明を市がくわえてきました。この中で反対意見から賛成意見に転じた議員もいましたが、私はその事業の裏づけがとれないということから、あいまいな判断は出来ないと退席させていただきました。本来であれば決まる前にみなさんと議論すればよかったと思います。私としてはきちんと市の説明の裏づけをとった時点で採決に臨みたかったのですが、やむを得ない判断で退席とさせていただきました。以上です。</p>
<p>意見交換内容 (質疑・意見・回答 の要旨)</p>	<p>佐藤：それでは市政の課題について、ご意見のあるかた挙手のほうどうぞ。</p> <p>市民：第3セクターの話です。最近アウガが5400万円の赤字が出たと報道され、議会でも問題になっていますね。</p> <p>ただもうひとつの3セク、ソフトアカデミーですけど平成25年度に3億2000万円の特別損失、赤字を出しているんですよ。これがなぜ議会で問題にならないのか？不思議でしょうがない。どこに問題があるかという、第3セクター、アウガもソフトアカデミーも、コーポレートガバナンス、内部での事務の監視に手抜きがあると思う。これを先生方に考えていただきたい。</p> <p>アウガもソフトアカデミーも創業以来、税理士も公認会計士も同じ人なんです。これは監視機能を高めるためにも変えたほうが良いと思うんですよ。外部の仙台あたりの公認会計士さんに、公正中立にやってもらうよう提案して市長に圧力をかけてもらいたい。</p> <p>3セクは株式会社だから外部からいってもやるとはいわない。アウガもソフトアカデミーも市が大株主です。それからソフトアカデミーは売り上げが13億円ある。このうち青森の発注が95%から97%なんです。ほとんど丸抱えです。</p> <p>だから税理士、公認会計士を変えるよう議会で意思表示してほしい。他の問題も出るかもしれないけど、決して悪い効果にはならないと思います。</p> <p>佐藤：今ふたつのお話がありました。まずソフトアカデミーの問題がきちんと議会で議論されているのかという問題と、第3セクターの税理士、公認会計士がずっと同じだというご指摘があった</p>

かと思いますが、どなたか。

奈良岡：確かにずっと、アウガもソフトアカデミーもオープン、始まってから税理士さん、公認会計士さん同じです。

議会では、議員個々で、私もそうですけど話をしています。市長のほうに。市のほうでも問題だという認識はもっていると思いますし、議員個々人もそういう認識で話していると思いますし、私も話していますけども、ただ先ほどのお話にもありましたとおり第3セクター、株式会社ですので、決めるのは会社。

いろんな事情があるようですが、そのところは何もしていないのではなくて、議員としてそれぞれの立場で意見を出し話している、その現状はわかっていたと思います。

工藤：ソフトアカデミーは第3セクターですので、決算金は議会に上がってきます。委員会にあがってくるのでいろいろチェックしますけども、市の発注が95%を占めているというのが現実です。小規模自治体向けのシステムを独自開発する話もありましたけど、途中で頓挫してかなり大変な状況にあります。

ただそういった話でも決算金のときに委員会で報告になっていますので、今後そういった話も含めて議会のほうからも働きかけていく、こういった話になると思います。

赤木：公認会計士に関しては、市が筆頭株主ですので、株主の立場として市がきちっとやらないといけない、こういった考え方だと思うので、そういった面できちっと株主の立場で、きちっと公認会計士を選定しろとはいえると思います。

そういった働きかけを議会でもしていくというのは、やっていかなければならないと思います。

市民：私はアウガに関しては、市長への手紙を5枚ほど出しています。最近の決算書を見て財務分析しました。ここで、財務内容の数字をご説明しても理解できないと思いますので、ただ自己資本比率がですね、8.2%なんです。小売業界では4割なければやっていけない。

それから最近手にした資料ですが、これから4年間全部赤字なんです。これから4年の経営計画、全部赤字なんです。合計が1億1200万円の赤字なんです。アウガの経営者見ても経営努力がありません。副市長も経営の経験はほとんどないと思いますので、こういう経営力がない中でアウガをやっていくのは無理だと思います。

それで解散したほうがいいだろうと考えます。これ以上市民に負担を求めれば大変です。これから4年間赤字、経営計画も努力もない。私も民間企業にいましたけども、これではすぐに倒産します。私はもっと抜本的な解決。中央から税理士や公認会

計士を入れて、抜本的にやらないと解決不能だと思います。以上です。

佐藤：アウガの話です。財務も経営も大丈夫じゃないんじゃないか、抜本的な解決必要じゃないかというご意見でしたが、議員の方どなたか。

赤木：アウガについてはまさにその通りです。4年間の赤字が続くと。平成21年に青森市では2億円の追加融資をしました。さらに5億6000万円の増資で、それによって債務超過にならないようにしようとしました。

それとアウガとして存続するために2億円あれば大丈夫だろうと、市長が提案しました。そのとき議会としては、ここにいる秋村さんの討論にもありましたが、今後一切公金は投入しないという条件で認めた事実があります。

しかし、4年連続の赤字が続くと減損処理会計で赤字に陥ります。まさに資金繰りも厳しい。多くの議員も感じています。しかしこれを、アウガとしてどうするのか、判断は株主がするのか、それとも会社が判断するのか2つの選択があります。どちらが判断するのか難しいのであれば、首長の立場で判断できないならどうすればいいか？会社の社長と首長を兼務することもあるかと思います。

いずれにせよ会社か行政か、どちらが今後のあり方について判断するのかこれが次の6月議会の大きなテーマになっていくと思います。

佐藤：藤田議員どうぞ。

藤田：第3セクターの話がありました。なぜ第3セクター、指定管理者を入れるのか。議員の仕事は市が出した議案に対していろいろ議論する。

ソフトアカデミー、第3セクターに議員は立ち入れません。ただソフトアカデミーに契約案件があったとき、結局議会で議論します。何でこうなったのか？とかは出来る。ただ中身の話については・・・そのためにあちこち第3セクターをつくる。これは議員の皆さんに口出しされないように、それが目的ではなく、事業しやすいようにと話しているけれど。

議会としては、第3セクターに予算やる。契約やる。その辺しか話できない。今回アウガは初めて議会として、附帯決議をして初めて中身を出させた。それまでは、経営内容を探せなかった。今回、附帯決議で初めて出てきました。

そういった点で第3セクターをつくる意味、これについても皆さんに考えてもらいたいと思います。

佐藤：ありがとうございました。アウガについては、これからも議会で議論されると思いますので、何か意見のある方は？

市民：きょう参加できてよかったと思っています。それは議員の方が、私たちの質問にきちんと答えてくれる、数えましたら14名、こういった場にきちんとこられている議員の方々はずばらしいと思います。

先ほどの子どもの医療費については素晴らしい、助成をすればほとんどの方々は喜ぶと思うんです。また公約があればみんなが喜ぶと、だからこれからは市民のほうがかしこくならなければ、いけない時代だと思いました。

また今回ここにこられた市会議員の方々にとても好感が持てました。ちゃんと答えてくれる方、説明してくれる方がこんなにいるんだと初めて知りました。ありがとうございました。

佐藤：今回の報告全般に関するご意見でした。アウガの問題はよろしいですか。それでは他のテーマでもご意見おありの方挙手を。

市民：福祉のことに関わることで、私は現在ひきこもりの当事者の家族会の代表をしています。ひきこもりの親・当事者、高齢化がすすんでいます。とくに親御さんは最高齢が80歳以上です。当事者は40歳を超えている現状です。青森市には45歳以上のひきこもりのかたが少なからず存在していることが家族会の中でわかりました。

親御さんが亡くなったとき、当事者の方をどのようにサポートしていくのかということが、家族会も含めて全国的な問題に発展しています。結局ひきこもっている当事者は部屋から出てこないこともある。生活が成り立たなくなってひきこもっている。部屋で孤独死する人も少なからずいます。そういったことに少し目を向けてほしいなと思います。今年の4月から厚労省が前向きに取り組んでいますし・・・ということです。

佐藤：ひきこもり、とくに高齢化の問題がありますよということで、民生環境常任委員の方どなたか？

藤原：実態がどうなっているかを、市役所のほうでどの程度つかんでいるのかということもあると思うんです。本人から申し出があるわけではないでしょうし、ご家族の方はご家族の方で悩みながらも、どこに相談したらいいのかと思っている方もいらっしゃると思うんですよね。

そういった面で、情報をいかに集めるかと、御発言された家族会の皆様のご意見も聞きながら、どのような対応をできるのか、考えていければと思います。

佐藤：よろしいでしょうか、今はこれ以上の発言は出来ないと思いますので。他にございませんか。

市民：今の問題、先ほどの問題も情報公開だと思うんです。やはり議会の情報公開、他県から見ても情報公開が不足だと。だから今までペーパーで配っていますが、今はそうでなくインターネ

ットなど様々なものがあるので、本当は佐藤先生が専門だと思いますけど、そういうことを議会で考えてほしい、そういうことです。

佐藤：いまは市政の中でも、議会への問題提起ということでよろしいですね。

工藤：議会のペーパーレス化は、タブレット端末を使ってということで、議員の中でも研修会を実施しています。当然データ化することでプリントしなくても、閲覧したり、市民の皆様にご提供できることもありますので、各党派、全議員が第1回目の研修会もやっていますので前向きに進んでいくものと思います。

佐藤：後ろの方。

市民：5月3日に東奥日報に出ましたけども、大島衆院議長就任おめでとうございますとありました。私毎日歩いていますが、市内の優良企業などの人とよく会いますが、よくいう言葉、なぜ青森市は載せなかったのか？なぜ青森市議会で載せなかったのかと、これがよくでます。

確かに青森市と市議会は出ておりません。大島衆院議長のお祝いにですね。ほとんどの県下の市町村と議会は出ています。今日市議会議員の方おられますが、事務局に聞きましたら金額的には3万円ですね。それを予算ではないと思いますけど、弘前も出しました、青森市役所の人には出さないと思っていたと思うんです。南部と津軽のことを考えたのか？そこまで考えていないと思うけど、普段の冠婚葬祭みたいなものに協力しない考え方、私はいまいち理解できないんですが、説明してください。

佐藤：市政の課題ということで、発言いただいております、課題といえば課題なのかもしれませんが議員の方で答えられる方、私市長が出していないのは認識ありましたけど議会も出していないのは事実そうなんですか？

仲谷：今、事務局の方に聞いたのですが、青森市議会の議長会として出しております。

佐藤：議会としては、大島議長に敬意を表している。となると後は市長の問題ですから、この場の問題ではないということで、よろしいですか？はい、ほかの方。そちらの方、どうぞ。

市民：福祉のこともいいですか、自由意見でもいいんですか。私新聞報道でしかわからないんですけど、青森駅の自由通路新築、改築というんですか？反対ではないんですけど、青森市の考え7割で改築するなら賛成ですけど、悪名高いわけではないけど、JRが主導でやるなら大反対です。

戦後から新幹線見てもわかるでしょ。鹿内市長のせいで3年遅れるとか、そんなことあるわけない。議員先生方も考えて発言してもらいたいです。

あと今日会場来てびっくりしたのが、野党・与党関係なく個人の先生はしっかりしていますよ。本当の話。しかし報道、テレビに問題あるのか、なんにしてもインタビューすると市政に反対する議員決まっていますよ、なんでも反対。テレビは恐ろしい。反対するやつは何でも反対。以上です。

佐藤：報道の方後ろに、東奥日報とRABの方がいらっしゃっていますので。青森駅の問題事実関係だけでも説明したほうがいいと思うんですけど、どなたか？

竹山：ペーパーありますが、読めば気持ちが伝わらないのでそのまま私が感じていることお話しします。駅ですね。東西自由通路です。当初81億7000万円の事業費、これが今年の3月で123億7000万円になりました。皆さんも見ている、1.5倍に膨らんだというのがその数字です。

現在第2期中心市街地活性化計画、国、県と進めています。その中で2期計画の目玉的事業と考えていいと思いますけど、この案件やるかやらないかは議決案件ではないです。まずいっておきます。市長がやるといえばやる。やらないといえばできない。

議会では重要案件は議決したいと思っています。しかし現在のルールでは、案件に該当しません。ただこの重要なきに、議会としっかりやり取りしましょうと議論しています。

市長は今月末までに予算の関係で判断しなくちゃいけないと話していますが、議会としてはもう少し猶予がほしい。これから6月議会も始まるので、6月議会でもバンバン議論したほうがいいと望んでいます。

さきほど81億円から123億円になったと話しました。このうち国の交付金は36億円から55億円とされています。で、市の借金はこれに関する市の借金は40億円から61億円に膨れるだろうと試算されています。で、一般会計からの持ち出し4億7000万円から6億9000万円ということに試算されています。

私たちは単純に81億円から123億円ということではなくて、国から来る55億円の関係、やらないということはお返しするということですから、それから40億円から61億円、借金をするこれは大変なことです。返していかなければならないので、そのことをどういうふうに戻していけるのか。あるいは21億円膨れる時点でだめなのか？さらには一般財源が4億円から6億円になる、この措置をどうするのか？

単純に81億円から123円億円、1.5倍だからやらないというのはちょっと乱暴でしょと。国、県、市民の皆さん、議会が先にすすむためにどうすればいいのか議論していかなければならないんじゃないでしょうかと、話している最中です。

で最後にもう一度言います。議会の議決案件ではありません。でも議論はしていかなければならない。ちょっと私見も入りましたが、そういうことです。

佐藤：ちょっと整理しますが、議決案件でないということにみなさんもエッと驚いていると思いますが、予算を扱う話ではないから議決案件じゃないという認識でいいんですよね？

藤田：議会は計画になるといえないけど、工事とか契約には言える。計画そのものには口出せない。

佐藤：計画自体は予算ではないと、予算を使うところで議会が絡んでくると、はいどうぞ。

市民：議論する気は毛頭ないです。ただひとつだけ、おたくに入っている情報だけで結構なんですよ。事業の主体は市がやるんですか。JRですか。なんでもかんでもJRにお願いだ。

竹山：JRです。いますすんでいるのはJRの関係です。

市民：乱暴だけど、わかるでしょ。戦後からのJRのやり方。

工藤：はい、なぜJRかといいますと、やはり線路絡むので、線路にかかる安全上の問題も含めて、JRにお願いせざるを得ない。他の事業者では出来ない。

市民：それはわかっている。うちに帰ればみんなそんな話をする。

工藤：すみません。

佐藤：駅の問題もこれからの話ですから他にありませんか、他にご意見あれば、よろしいですか？

館山：ちょっといいですか？この駅の計画は東日本大震災の前から計画して国に提起しているものでして、実際前年度からの予算が6割カットされてしまいました。これは青森市の決断が遅くなって、事業者にやる気があるのかとの判断から、そういった判断にいたったと。

先日、自民党会派で、国のほうに経緯と今後どういった流れになるのかを確認しに行きました。今後の交付金の明言は避けましたけど、徐々に下げていこうと、要するに青森市は本当にやる気があるのか、国で判断したいということもありますので、これから延びることによって、市民負担、財政負担の状況は悪化するだろうということを懸念します。これは私の個人的考えです。

佐藤：はい、ありがとうございました。他のテーマで課題、発言等ありましたら、どうぞ。

市民：先ほどの方の情報公開やってほしいという意見ありましたね。それからひきこもりの関係の意見で、藤原先生が、市のほうで実態をつかんでいるのかどうか、ということをおっしゃいましたね。この情報、同じテーマでくくれると思います。というのは情報公開やってもらわないと、市民が意見もとめられても判

断の手立てがないですよ。徹底しないと。たとえばお金のことも出ていますけど数字も出してもらわないと、僕らはいえないですね。判断できない。

ひとつ例を挙げます。3月定例会陳情の採決の結果見たら、ある市民団体があげた、犬、猫の殺処分の数を明らかにしてほしいという陳情をあげたら議会がこれを不採択しちゃったんですよ。これは笑っちゃうような話ですよ。国でも県でも公開しているんですよ。それから先生方がだまされたのは、中核市は公表していないとありましたが、東北の郡山市、秋田市、それから政令指定都市の仙台市はもちろん公開しています。中核市で公表していないのは、盛岡市と青森市です。

要するに間違った情報先生方に入れられちゃったんですよ。それで判断しちゃったんですよ。これが市の担当者が意図的にやったんなら嘘となりますよね。間違ったなら仕方ないけど。

佐藤：ありがとうございます。陳情を不採択しましたと、犬、猫の殺処分の陳情、実態を調べろという陳情を公開しろというのを不採択されたようだが、判断をするときの情報が間違っているのではというご意見だそうです。どなたか。

竹山：殺処分の関係の陳情。最近陳情が40件とか50件とか大分あがってくるんです。それでその議会で処理できず、次の議会まで継続してやったりが続いてきました。もしかするとそれもあつたかもしれません。情報をあやつっていることはまずないですから。それから入ってくる情報間違っているのではと、この部分いま明言できませんので、私のほうで再度チェックしたいと思います。よろしくお願いします。

ですから陳情の扱いも整理しようと、議会運営委員会で整理していますので、その点もよろしくお願いします。いずれにせよ議会でやっていることを隠すつもりは毛頭ありませんので、よろしくお願いします。

佐藤：他にありませんでしょうか？

里村：犬、猫の殺処分の陳情に私反対しました。なぜかというところを公開することによって、子どもたちが傷つくんじゃないかと、私はそう思っています。犬、猫は子どもたちにとって大事であります。うちの孫も、犬と猫の動物園あるのでそこいってききましたけども、そういうことで、情報公開するのもいいんですけど、やはりそれは必要な人がスツときてやってもらいたいと思います。勘違いしている部分もあるかもしれませんが、私はそう思って反対しました。個人的に、はい。

佐藤：他にございませんでしょうか、ご意見。

市民：これは反論していいの？反論。

佐藤：それでは最初言った討論になってしまいますので・・・いろいろ

ろあると思いますがそれはまた違うところということで、お願いできればと思いますが。

市民：あの一、私が言っているのはね・・・

佐藤：はい、あのすいません、いろんなご意見の方がいらっしゃっているのも理解しあいましょって言うのも趣旨のひとつですので、よろしくお願ひします。他にございせんか、どうぞ。

市民：これは討論でなく、ひとり言ですけど、よく現市役所を駅前にもってくればいいとかありますけど、個人的に感じてますけど、私中心街のもんです。工藤先生ご存知でしょうけど。

賛成、反対でなく駅前公園わかります？あれいい悪いでなく駅前公園は地下駐車場、あの上に物建てられない、工藤先生そうでしょ。あれ一般に明鏡欄でも、あの上利用して何でもかんでもやって、結構スペースあるんでないかと、わからなくて申し上げている人もあると思うんです。それ議会でPRしなさいという意味でないですけども、あちらに駅をもってきたほうがいいと考えている人もいるんじゃないかと、これひとり言です。

佐藤：答弁しますか？

工藤：ラビナ前の駅前公園、あの空間は地下駐車場がありまして、あのままでは上に物は建てられない。あそこを様々利用すればいいのではないかという意見もありますが、重さに耐えられない、ワンクッション工事が大きくなってしまいますので、大きな建物を建てるのは難しいと、これは答弁も返ってきておりまして、全議員納得しているところです。

佐藤：他にご発言ある方、特に今日たくさんいらっしゃっていますので、まだ発言していない方。ここに若い女性の方3人いらっしゃって紙にも書いていますし、何かご発言いただけるとありがたいんですけど、どうぞ。

市民：私は子どもたちにかかわる仕事しているんですが、私の職場で市庁舎で出る話は、調査などわからないのでこういう話をするんですが、アウガを活用すればいいのではないかと言うのが、一番の意見です。

それともう1つ、親御さんや私たち子ども育てている人の意見では、青森市の中に子どもたちが遊ぶ場所が少ないということです。八戸ならこどもの国ですとか、親も一緒に楽しめて、また買い物する場所も、男性議員の方はご存知かどうか、青森の方でもエルムに買い物いきます。あと弘前だったり、八戸だったり、へたをすれば盛岡、仙台まで日帰りで買い物行きます。それは市内に魅力ある場所が少ない。これが多くの意見です。市内でも、冬場でも子どもたちが遊べる場所、それから青森市は結構お金とるよねなど、こういった意見も踏まえて考えられたらなと思います。

佐藤：ありがとうございます。3つあったかと思います。市庁舎はアウガにすればいいのではないか？という若い女性の意見が多いと、あと子どもが遊ぶ場所が少ない、女性がい物できる場所が少ないというご意見ですが？市役所庁舎をアウガについてはどなたか？どうぞ。

赤木：市役所をアウガにということについても、いろいろ議論してきましたけど、現在は現在地に整備することになりました。ただこれは個人的意見ですけど、先ほどの駅も含め、庁舎も含め、これらをかみ合わせ、より負担の少ないやり方は出来ると思うんです。

それはひとつアウガの話ありましたが、それは会社としての結論を出した上でないと進められないので、その結論を首長が出すべきだろうと、その上で考えるべきだと思います。財政の話が出ましたが、将来の世代に負担させないようにと、多くの議員も考えていると思います。そういった選択を、アウガ、駅、庁舎でもしていくべきだと思います。

あと子どもの遊び場が少ない。ただこれが、官でつくるべきなのか、民でつくるべきなのか、議会の中での議論も少ないので、私も12年議員をやっていますが、まだまだそういった議論少ないと思います。今回こういった意見が出ましたので、持ち帰って、これは所管が文教経済、民生も絡みますかね？そこで議論の対象になっていくと思います。買い物については、私もよくわからないので・・・

工藤：2番目の子どもの遊ぶ場所は私も言われているんですが、これは少子化につながる問題でもあります。そういった意味では、いまいろいろ総合戦略など、少子化に向けた対策をつくっていく過程にあるんですけど、その中に多分20代、30代の小さな子どもがいる女性の意見どういうふうに反映されるか、必要になっていくとおもいます。この部分はまさに次の議会でも考えていたところでありましたが。女性の買い物の場所については私もちょっと・・・

市民：買い物の場所がないわけじゃなくて、魅力がない。

工藤：そういう需要があるところに対応できないのは、商店街やショッピングセンターに課題があるだろうと思いますが、どなたか議員の方で・・・

館山：確かに買い物の部分で、アウガで下見してエルムに買いに行くとか、声は聞きます。やはり店舗の状況もそうですけど、1階のオープンスペースで手軽に買い物できるとか、わざわざ秋田、盛岡まで行ってブランドを選びに行くということも聞いております。アウガのほうでも魅力あるメーカーを呼ぶ努力はしていると聞いています。これは赤木議員もおっしゃったように、民

でやるのか、官でやるのかの問題になってくるかと思ひます。子どもの遊び場では幼児が対象ですが、エルムの2階にもコーナーがあるように、また視察で行った福島で、これは官でやっていたものですが室内の砂場など、議論に入れてもいいのかと思ひています。以上です。

佐藤：他にご意見。どうぞ。

仲谷：女性の魅力的な買い物の場所という意見が出たのですが、それは私も新町、私は車の運転が出来ないので、新町に良く出ます。そこであそこはデパート以外は専門店ですので、買い物しますけども、新町に住んでいる方のアンケートをとったことがあって、新町のマンションに住んでいる人は、あそこで買い物をしないという、魅力的でないという意見で非常にビックリしました。ですから専門店、それぞれがもっと魅力的なお店にしないと買わないんだと、やっぱり実態としてお店の方は知らなければいけないのではないかと思ひます。

それから先ほど子どもが遊べる場所、大きな広い子どもの遊べる場所、他の市でも子どもの夢パークみたいなものをつくっているところたくさんあるんですが、これは私の勝手な考えですが、アウガを子どもの夢パークにしたらいんじゃないかと思ひております。

青森市は4歳以上の子どもは、ラビナの4階にもくもくっております。たくさんのおもちゃがあって、少しお金かかりますけども、アウガは3歳までの遊び場として保育士さんもいますが是非そこも行ってみてください。冬でも暖かい中で、遊ばせることができますので。以上です。

佐藤：ありがとうございました。ほかにご発言されていない方、もう少しの時間ですのでご意見ありましたら、よろしくおねがひします。どうぞ。

市民：市政の課題とは違ひ話かもしれませんが、子どもの医療費のときの退席の話で、退席された議員の方からお話でたんですが、政治の知識はあまりないので退席自体がいいのかどうかについてはわからないんですけど、判断できないから退席したって言うことなんですけど、じゃあ何のために市議の人がいるのかなって疑問に思ひまして。

私たちの世代はどうせ政治家に任せてもよくなるまいでしょうと、選挙にいかないっていう人がすごく多い世代ですけど、だからこそちゃんとやっているところを見せてくれれば、私は自分の意見を反映させてほしくて選挙に行くんですけども、そういうふうにはわからないから、判断しようがないからと退席して、議決に参加しないということになると、私たちの意見も、賛成だ、反対だといっても退席されれば何も反映されない。じ

やあ意味がないって選挙離れになると思うんです。

だから判断できないなら反対して議決を延ばすとかでもいいんじゃないかと思いました。

木戸：私も退席した一人です。実は先ほどありましたけど、財源などいろいろな部分でまだ白黒つけられない。そしてつけた以上は責任を取らなきゃいけない。これが私の信念です。

ですから、いやなものはいや、いいものはいいでございますが、クエスチョンについてはクエスチョンのままでは議会として活動するのはいかがなものか、その中でも私に少し時間をくださいということで退席しました。その後については、日々皆様とがんばって結論を出したいと考えています。よろしいでしょうか？

佐藤：いいですか。

赤木：微妙な問題なんですけど、いろんなお考えがあります。私も退席したことがあります。ただ自分の思いとしては、なぜ退席しないとだめなんだと、一年生議員だったので先輩に言われるままに退席しました。そのときやっぱり議会の場所を貸し与えられている議員として、無責任だなど、結論を出せないというのは、ということでチーム、会派の中で合意形成を経て、きちっと結論を出すことが、青森市の会派制の中での形ではないかと、そこには苦渋の決断もあるかもしれませんが、議員は市民に選ばれ、税金で報酬をいただいている限りは、その考え方は明らかにして、自分のとった行動に説明責任を果たす立場にあることは仕方ないですし、私自身はそういった考えに基づいて行動したいと思います。以上です。

佐藤：大変いい質問だったと思います。退席は市民にとってわかりにくいと思います。そして誰が退席して、賛成、反対したかは市議会だよりに載っているんですね。市民のみなさんそこに関心を持って市民のみなさん直接選んだ議員に、どうしてだといえますし、そこをしっかりとチェックするのは大事だと思います。どうぞ。

市民：今日この会場に来て感じたことは、ベテラン議員がぜんぜんいないですね。この議員はいやだっていう人も鹿内市長と対立していてもいいと思うところはある。でも今日ぜんぜんいないですね。ますますそういう議員は嫌いになっていきます。これはあなたたちの仲間でもあるので、お茶飲むときとか是非話してください。

それと1つ、自分も運転免許返納しました。ところが柳川に用があって、本庁にも用があるとか、奥内とか遠くはいいですけど、私は安易な分庁には反対です。分庁をつくった以上は、3人、4人でできないですから、経費がかかるだけです。本庁に

行ったりあっちに行ったり、業者さんは車でバンバンいけるでしょうけど、これもひとつの検討余地があると思います。

佐藤：どなたかご返答されますか。

奈良岡：この語る会は、議会広報広聴特別委員会で計画を立てているもので、私もメンバーなので、先ほどの参加議員のお話にお答えしたいと思いますが。今回2会場に分かれています。青森と浪岡のほうで語る会をやっています。市議会議員が35人いて、4つの委員会あるんですが、それが2つずつの委員会に分かれて担当していますので、こちらにはそのうち2つの委員会が参加している。たまたまこのメンバーに皆様をご存知の方が入っていないということもあったかと思いますが、便宜上2か所でやるということで、議員も2手に分かれていますので、議員もこういう形で参加していることはご理解いただきたいと思います。

佐藤：はい、そろそろ2時間ですが、これだけは言っておきたいなどありましたら、あとお1人くらい、どうぞ、その方最後で。

市民：2分で終わります。私も子どもにかかわる仕事をしていまして、特別支援教育というものがあります。昨年度まで働いていたんですが、何年か前に人数を増やすということで、時給が何分の1かカットされるということがありました。

これから支援員の仕事は発達障害も多くなり支援学校でも教員1人では足りない現状も学んできました。これからもっと需要が増えると思うんですけど、やっぱり人数増やすから、予算がないからと時給カットするのではなく、その分の予算はなんとかしても減らさずきちんとした対応をしてもらいたいと思っておりまして。なかなかいう機会がなかったので思い切って発言しました。

佐藤：障害児の方の特別支援員の制度についてということですよ。

市民：特別支援教室にいらっしゃるお子さん、先生の援助、補助をする仕事なんですけど、他の市と比べても青森市よりも高いと聞いておりますので、今は800円になっています。よろしくお願ひします。

佐藤：今の問題でどなたか？

藤田：皆さんも御存知のとおり、障害児の子どもも増えています。私は特別支援学校の連合会の県の顧問をしておりますけども、普通の学校にあって対応してもらわなければいけないということで、県と市と協議して各市町村の学校に分けて受けてもらえるところに受けてもらっています。

もしかすると県から来ているお金をつまんでいるかもわからないので、これは市議会として、来ている予算はやって、支援員の教育もきちっとする。今、数も増えているので、健常者の子

	<p>どもにも障害者の子どももいるんだよと教育もかねた課題ですので、そのことは私自身として、議会としてみなさんも承りました。私、単価 1000 円と聞いていましたが、800 円だそうで、ありがとうございました。</p> <p>佐藤：赤木議員どうぞ。</p> <p>赤木：当初の 1000 円が 800 円になったんですけど、市の臨職が 800 円です。これに合わせる非常に安易な発想です。これについては教育委員会になんども申し入れもしていますし、対応はしているんですけど、今後仕事の内容に応じて単価を決めさせていかなないとダメだと思っています。これはどの議員もそういう考えに立っていると思います。これは県ではなく、市が行革の一環としてやったことなので、間違っただけの行革ですので、こういったお話もありましたし正していかなければならないと思います。</p> <p>もう 1 点先ほど奈良岡さん答弁されましたけど、今回議会報告会は私たちが決めた、議会基本条例にのっとった会合です。ですから何があってもこれには出席するのが最優先です。まことに恐縮ですが、一部の会派の出席率が低いのは顕著な話です。そこは今後反省会の中でもキチッと反省しなければいけないんですけど、自分たちが決めた自分たちがやろうといった会合に参加しないのは、まずもって一番間違っただけの考え方だと、それだけは申し述べておきたいと思っています。以上です。</p> <p>佐藤：よろしいですか。ちょうど 2 時間になりました。私が今まで見た議会報告会の中では、1 番かみ合っているような意見が出たんじゃないかなと思います。御協力ありがとうございました。</p>
記録者所見	<p>初めて、ファシリテーターの方に司会を行っていただきましたが、佐藤先生の司会により進行がスムーズに行われ、市民のみなさんから、様々な分野からいろいろな意見が出されて、意義のある意見交換になったと思います。</p> <p>また議員も今回から自由に発言できるようになったということで、参加者の皆さんへの質問にもそれぞれ自分の思いも含めて答えることができたことによって、より中身のある議会報告会になったと思います。</p>

※写真添付必須のこと

青森市議会議長 様

平成 27 年 7 月 17 日

上記の通り報告いたします。

会場責任者 工藤 健

出席議員 奈良岡 隆

出席議員 里村 誠悦
出席議員 藤原 浩平
出席議員 館山 善也
出席議員 赤木 長義
出席議員 仲谷 良子
出席議員 軽米 智雅子
出席議員 小豆畑 緑
出席議員 木戸 喜美男
出席議員 秋村 光男
出席議員 竹山 美虎
出席議員 藤田 誠
出席議員 山脇 智

議員とカダる会 (議会報告会・意見交換会)



進め方

- ◇ まず意見を付箋に書きましょう。
→参加者全員の意見を受け止めたい
と思っています。
- ◇ 発言は、原則1テーマ2分1回限り、簡潔に。
→なるべく沢山の方に発言して頂きたい
と思っています。
- ◇ 発言の趣旨を確認させていただく場合があります。
- ◇ 最後に全員の付箋を回収します。

換会)

